Katsurao AIR,2024

Artist in Residence Programs 年間タイムライン

5月1日–11月30日
ロング滞在
【アーティスト】
永井 文仁／増田 拓史

6月1日–7月31日
ショート①滞在
【アーティスト】
橋本 次郎／鮫島 弓起雄／町田 紗記

10月1日–11月30日
ショート②滞在
【アーティスト】
大川 友希／YuUkiKATAYAMA／斎藤 英理

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

ロングターム

ショートターム①

ショートターム②

7月25日–28日　活動報告会

11月21日–24日　活動報告会

葛尾中学校での活動報告会の様子

活動報告会

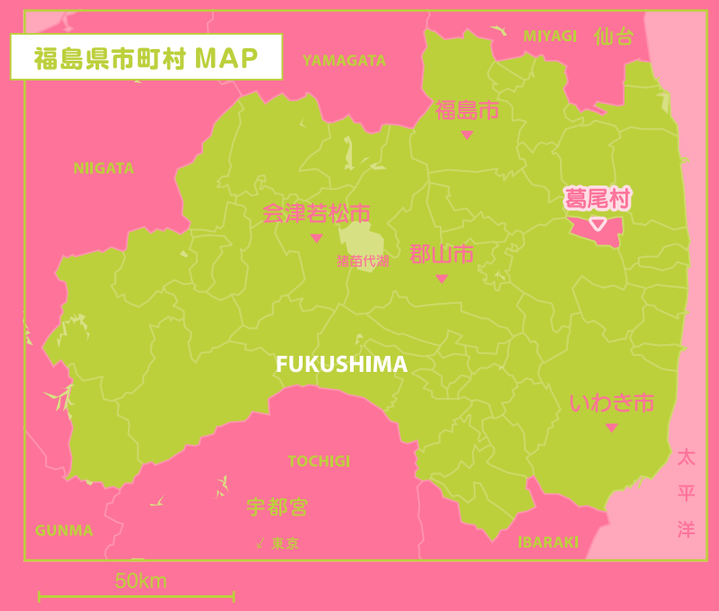
滞在期間の最後の週末４日間（木曜日～日曜日）は、制作過程を公開するオープンスタジオ形式にて活動報告会を実施いたします。
会場は、葛尾村立葛尾中学校の休校中校舎（福島県双葉郡葛尾村落合菅ノ又 14-2）を中心とした葛尾村内各地です。
アーティストの取り組み内容によって、報告会期間中にアーティストトークやワークショップを同時開催することもございます。
最新情報は、Katsurao Collective 公式ウェブサイトまたは各 SNS（Instagram,Facebook, X）にてご確認ください。

【運営企画・お問い合わせ】

KATSURAO COLLECTIVE
カツラオコレクティブ

現代アートが社会での実践を展開し、アートと社会との接点が深まる現代において、“アーティスト・コレクティブ”※の存在はますます重要になってきています。コレクティブという枠組みは、アート活動を個人主義的な創作活動の枠から解き放ち、より多様でフレキシブルなアートの形を社会へと提示します。多様な価値観を持ちながら、創造性という価値でつながり一緒に活動を始める。
Katsurao Collective は、この地でそのようなコレクテイブとなることを目指すプロジェクト名であり、創造性という価値でつながる共同体の名前でもあります。
※共通の目標を達成するために活動するアーティストによって形成された集団

Email：office@katsurao-collective.com
Web：http://katsurao-collective.com
Instagram：katsuraocollective



主な拠点：Katsurao Collective 事務局　福島県双葉郡葛尾村落合菅ノ又１４−２　葛尾村立葛尾中学校校舎内
主催　葛尾村、一般社団法人葛力創造舎　※本事業は葛尾村より「令和６年度葛尾村アーティスト移住・定住促進事業」を一般社団法人葛力創造舎が委託され実施しています。

Katsurao AIR
Artist in Residence Programs

ショート①

鮫島 弓起雄

SAMESHIMA Yumikio

大学卒業後、教職経験や長期海外旅行のため５年間ほど制作を行わない期間があり、帰国後から本格的に作家活動を開始した。以来、主に立体作品とインスタレーション作品の制作、発表を続けている。発表の舞台となる空間の特性やその現場の持つストーリー、周囲の環境などを利用して、物理的にもコンセプトの面でも、その場と深く関わりほかの場所では再現できないような作品を展開している。毎回空間に合わせて使用する素材や制作方法、表現様式も異なることがほとんどである。また、自身の作品制作以外でも、あらゆるジャンルの表現者が集まる交流会を主催、日本とメキシコのアート交流プロジェクトの立ち上げと運営に携わる、など、アーティスト同士の個人的かつ国際的な繋がりを探る活動も積極的に行っている。

ショート②

大川 友希

OKAWA Yuki

[主な展示歴]
2013「一幕見」TENGAIGALLERY (東京)
2014 新宿クリエイターズフェスタ (東京)
2016「Blue Bird 森の向こう - 愛知県立芸術大学 50 周年記念」(愛知)
2023「FUTURE TO-DAY 今日という未来」ホテル三日月 (千葉)
[芸術祭]
2013 越後妻有アートプロジェクト「大地を包む - 繊維からの再考 -」(新潟)
2020 Chiba Art Festival 2020 千葉県立美術館（千葉）
2021 奥能登国際芸術祭 2020+スズシアターミュージアム (石川)
2022 瀬戸内国際芸術祭 2022 女木島名店街 (香川)
[個展]
2013「祭」TENGAIGALLERY (東京)
2015「繋」布文化と浮世絵の美術館 (東京)
2017「close yet far」hpgrpGALLERYTOKYO 新宿ルミネ (東京)
2018「MEMORY」OssamGallery(NY)

ロング

永井 文仁

NAGAI Fumihito

1980 年兵庫生まれ。2004 年大阪芸術大学写真学科卒。
見えないものを見るということに興味がある。視覚の錯覚や刺激から感じる意識の流れに重点を置き、見るという知覚から物事を推論する為に、精細に事実を観察する方法として強度の高い写真を主に扱い制作をしている。イメージから世界を理解し、表現し、共有する手段を様々な視点からアプローチを試みている。2011 年から東京藝術大学美術学部写真センター助手。2014 年より助教。2021 年より先端芸術表現科非常勤講師。
主な活動歴に「中之条ビエンナーレ 2019」群馬 ,
「SYNCHRONICITY」（2018, チェンマイ , タイ）,
「The SUMMERSHOW」（2017, モデナ , イタリア）,
「《写真》見えるもの／見えないもの＃02」（2015, 東京)

ショート①

橋本 次郎

HASHIMOTO Jiro

音楽家 / サウンド・アーティスト
楽曲や音を主軸としたアート作品のほか、ある土地の文化や歴史、風土を背景とした「象徴的な音」をテーマに各地でフィールドレコーディングを行い、そこで聴こえるサウンドスケープ（音風景）をモチーフとした作品を制作している。
主な展示
「世界遺産宗像 宗像みあれ芸術祭」（宗像大社辺津宮 / 福岡 /2023)、「大子町 ×JR×Avex 水郡線駅舎アートコンペティション」（JR 上小川駅 / 茨城 /2021)、「木津川アート」（木津川 / 京都 /2016,2018,2021)、「国際芸術祭 BIWAKO ビエンナーレ」（まちや倶楽部 / 滋賀 /2020)、「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」（麗潤館 / 茨城 /2016）
http://zeit-label.com

ショート②

YuUkiKATAYAMA

ユウキカタヤマ

2024 年日本インストラクター技術協会の音楽療法カウンセラー、メンタル心理ミュージックアドバイザー資格を取得。
1984 年京都生まれ。「音」と「音楽」の狭間を往来するサウンドアーティスト。2021 年自身の楽曲で iTunes ランキングのインストゥルメンタル部門 1 位、ジャズ部門 2 位を獲得。2022 年自身の 4 th Alubum「INSPIRED BY COLORS」リリース。同年、ロームシアター京都、福岡アジア美術館等全国 9 カ所様々な場所にて音と身体表現で自身を展示する「YuUkiKATAYAMA Tour2022」を開催。2023 年フランスパリの老舗劇場「Théâtre de l'Île-Saint-Louis」にて自身の公演「THE EARLESS -6th Sense-」二部公演開催。同年、瀬戸内国際芸術祭主催の瀬戸内アート塾参加。2024 年展示会「Water/Space」を間 -MA-(京都) にて開催。人感センサースピーカーを使った作品「DuctSensorOrgan」発表。

Photo©YuUkiKATAYAMA

ロング

増田 拓史

MASUDA Hirofumi

1982 年茨城県生まれ埼玉県育ち。横浜美術短期大学卒業。
2011 年から宮城県石巻市に拠点を置く。特定のコミュニティや地域の日常生活をリサーチし、人々の記憶にテーマをあてた作品を制作。写真、映像、インスタレーションや出版物など、アウトプットの形態は問わない。2011 年から開始した食堂プロジェクトではこれまでに、10 以上の地域で 50 軒以上の家庭を訪れ、80 品以上のレシピとその記憶をアーカイブした。また、日常の中でも作家としての職能を活かし、領域横断的に活動している。主な展覧会に、「River to River 川のほとりのアートフェス 2022」（2022 年、群馬）「浪漫台三線藝術季」（2019 年、台湾)、「リボーン アートフェスティバル 2017」（2017 年、宮城 県)、「CAFE in MITO R」（2015 年、水戸芸術館、茨城）「JUMP」（2015 年、十和田市現代美術館、青森）など。

Photo©HIROMI Furusato

ショート①

町田 紗記

MACHIDA Saki

2015 年　筑波大学芸術専門学群美術専攻洋画コース　卒業
絵描き。1992 年群馬県生まれ。筑波大学を卒業後、活動拠点を関東から愛媛県松山市へ移す。動物と植物と人の関係性を見つめ、人が自然として存在する世界をテーマに制作を続けている。主な活動歴として、個展「土に還りて、土に生まれる」（ギャラリー　リブ・アート／愛媛、2023)、「かがわ・山なみ芸術祭 2022AYAGAWA」での壁画制作（綾川町立西分公民館／香川、2022)、「群馬青年ビエンナーレ 2017」入選（群馬県立近代美術館／群馬、2017)、「別府現代芸術フェスティバル 2015 混浴温泉世界 わくわく混浴デパートメント」での滞在制作（トキハ別府店／大分、2015)。また、地域などの特徴を感じ取って描き表す紙人形「こびと」を制作する「こびと製作所」としても活動。

Photo©Shunya.Asami

ショート②

斎藤 英理

SAITO Eri

1991 年福島県生まれ、東京都在住。記憶や認識など目に見えない不確かな動態をモチーフに、主に映像メディアを用いて制作を行う。近年の主な展覧会に、「ビジター・キュー」（山中 Suplex の別棟 MINE、2023 年)、「how to make friends」（Art Center Ongoing、2023 年)、都美セレクショングループ展 2021「暗くなるまで待っていて」（東京都美術館、2021 年）など。スクリーニングには、「European Media Art Festival」（オスナブリュック、2023 年)、「EASTEAST_TOKYO 2023」（科学技術館、2023 年)、「第 14 回恵比寿映像祭」（東京都写真美術館、2022 年）など。2024 年初開催の e-flux Film Award にて Second Prize を受賞。
https://www.erisaito.info

Photo©Shun Ikezoe

アーティスト

Katsurao AIR,2024
Artist in Residence Programs

リターンアーティスト

2023 年度に Katsurao AIR に参加したアーティストが、葛尾村をテーマにした作品を制作します。

大槻 唯我

OHTSUKI Yuiga
Photo©Shihyen Lin

榎本 浩子

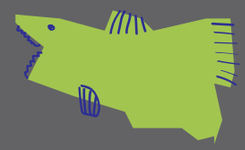
ENOMOTO Hiroko
Photo©Nakamura Osamu

喜多村 徹雄

KITAMURA Tetsuo

村上 郁

MURAKAMI Kaoru



Katsurao AIR とは

Katsurao AIR（カツラオエアー）は、福島県葛尾村にて実施するアーティストインレジデンス（AIR）プログラムです。アーティストやクリエイターが葛尾村内に滞在し、ワークショップ、展示、トークなどの多様なプログラムを実施します。
　本プログラムは、この地で芸術文化振興の一端を担うことにより、新たに村内外の人々の交流を生み出すとともに、地域の魅力を発掘・発信し、クリエイティブな活動の起点となることを目的としています。

福島県葛尾村について

葛尾村（かつらおむら）は、福島県の東側に位置し双葉郡に属している小さな村です。古くは馬産や木炭生産などが、現在は農業や畜産が主要な産業となっています。2011 年の原子力災害により全村避難を余儀なくされ、現在は帰村者と震災後の転入者が村内で暮らしています。2024 年 3 月時点で、人口 1259 人（居住人口 470 人）です。

福島
葛尾
エアー
2024

note, Podcast 配信中！